

	浜松市	世田谷区	足立区	板橋区	中野区
計画名	・第3次基本計画「U・ゆうプランⅢ」 ・第1期推進計画(基本計画とともに令和4年3月策定)	ユニバーサルデザイン推進計画(第2期)後期 ーだれもがユニバーサルデザインの視点と心でまちづくりー(平成31年3月策定)	足立区ユニバーサルデザイン推進計画 [2019年度～2025年度](令和2年2月策定)	・板橋区ユニバーサルデザイン推進計画2025(平成29年1月策定) ・板橋区ユニバーサルデザイン推進計画2025 実施計画2025(令和3年3月策定)	中野区ユニバーサルデザイン推進計画 2019▶2023(令和元年5月策定)
理念	基本理念 「思いやりの心が結ぶ優しいまち」 ～ユニバーサルデザインが当たり前前の社会～ ・誰もが自らの考えで選択し、自由に社会参画し、いつまでも安全かつ安心して快適に暮らすことができるまちとなるように、市民、事業者、市が互いに連携・協力、実践し、「人づくり」「仕組みづくり」「まちづくり」を進め、ユニバーサルデザインが当たり前前の社会となる「思いやりの心が結ぶ優しいまち」の実現を目指す。	目標1 公平な社会づくり 全ての人の人格と個性が尊重され、社会のあらゆる活動に参画し、自己実現できる地域社会をめざす 目標2 ユニバーサルデザインのまちづくり だれもが利用しやすい生活環境の整備を推進し、安全で安心して快適に住み続けることができる“まち”をめざす 目標3 区民参加でまちづくり 区民、とりわけ利用者、当事者と共に検討して、有効なユニバーサルデザインの実現をめざす	将来像 ひとを育み まちを創る だれもが自分らしく暮らせるまち 足立 ・高齢者や障がい者など多様な人々への配慮がされた施設づくりを進めるとともに、だれもが、立場が異なる人々への理解や共感を深め、いつでも「思いやりのこころ」を持ち、「こころづかい」ができる区民があふれるまちをめざす。	将来像 もてなしの心を大切に、すべての人が心地よさを描けるまち いたばし ・「子どもがぐらしやすいまちは、すべての人がぐらしやすいまち」との考え方にたち、「すべての人」を対象とする。	基本理念 ハード 支障なく円滑に利用できる都市基盤・施設の整備の推進 基本理念 ソフト 平等かつ円滑に利用できる商品・サービスの提供の推進 基本理念 ハート 一人一人の個性や多様性が理解され、様々な人が支え合うための理解の促進
目標	基本目標Ⅰ (こころ)個性と多様性を認め合う“心” 基本目標Ⅱ (ひと)主体的に実践できる“人” 1 多様性を理解し、認め合うことができる人 2 主体的に行動し、実践できる人 基本目標Ⅲ (こと)誰一人取り残さない“仕組み” 1 自らの考えで選択し、社会参画できる仕組み 2 いつでも、どこでも、誰でもつながる仕組み 基本目標Ⅳ (くらし)未来まで続く安全・安心な“まち” 1 安全・安心かつ自由に移動できるまち 2 いつまでも続く快適なくらし	基本方針Ⅰ みんなで取り組み、進める 1 すべての人が、ユニバーサルデザインに考慮して取り組む 2 気づきと思いやりの心を広げる 3 ユニバーサルデザインの検討に区民参加のプロセスを導入し、区民の声を反映する 基本方針Ⅱ ユニバーサルデザインのまちをつくる 4 公共的施設のユニバーサルデザイン整備の質を高める 5 だれもが安全で、楽しく快適に暮らせる地域を実現する 基本方針Ⅲ ユニバーサルデザインによる情報とサービスを広げる 6 ユニバーサルデザインによる情報とサービスを通して、お互いのコミュニケーションを広げる	柱1 思いやりのある『ひとづくり』 互いを理解し、こころづかいができるひとを育みます 柱2 快適にすごせる『くらしづくり』 多様なサービスを提供し、安心なくらしを実現します 柱3 便利に生活できる『まちづくり』 利用しやすい空間を整備し、安全なまちづくりを進めます 柱4 みんなに役立つ『しくみづくり』 多様な情報発信のしくみをつくり、心豊かな共生社会を支えます	指針1 地域で支えあう「ひと」の「もてなしの心」を育みます ・「ひとごと」を「自分のこと」に、さらに「お互いさま」へ ・「知る・学ぶ」「気づく」「体験・共感」の循環 指針2 「くらし」を支える「まち」の力を引き出します ・「支援する」「支援される」から「共にくらす」へ ・「できる」「できない」から「できることから」へ 指針3 安心・安全で魅力ある「まちの空間」づくりを進めます ・「知識」「技術」を活かし、「知恵・工夫」を発想する ・「作る」「使う」そして「担う」視点へ 指針4 ひと・まちを支えユニバーサルデザインを効果的に推進するための「しくみ」を整えます ・「始める」「終える」から「続ける」へ ・「計画する・実行する・評価する・改善する」を「ノウハウ化」する	目標 ハード ・安全で快適な歩行空間が整備されている ・誰でも利用しやすい公共交通が整備されている ・誰でもわかりやすい標識・サインが整備されている ・誰でも利用しやすい施設が整備されている 目標 ソフト ・誰でも利用しやすいサービスが提供されている ・誰でも使いやすい商品が普及している ・誰でもわかりやすい情報が的確に提供されている 目標 ハート ・ユニバーサルデザインの考え方が理解されている ・様々な個性や多様性が尊重されている
改定の視点	・第3期では、「心のユニバーサルデザイン」の浸透を目指す ・基本目標「ひと」「こと」「くらし」の3つの柱のすべてを、「こころ」が覆うあるいは「こころ」を込めることを目標とする ・デジタル技術を有効活用する	・多様化するニーズに対応し、生活環境の質、多様な人の利便性の質を高めるために、区民参加(利用者・当事者参加)を進める必要	・障害者差別解消法の施行、ユニバーサルデザイン2020行動計画の決定等を踏まえて改定 ・柱を「くらしの場づくり」「ものづくり」「ひとづくり」「サービスや情報づくり」「しくみづくり」から整理	・普及啓発や人材育成、情報提供やくらし、公共施設等、移動手段や交通施設等、また、推進体制についての現状と課題をもとに改定	・社会状況の変化等を捉えて改定を予定 ー中野駅周辺等のまちづくりの進展 ーデジタル技術の普及等による情報環境の向上 ー多様性に関する理解促進機会の増加